

暗唱のすすめ 百人一首編⑮

七十一

夕されば 門田の稲葉 おどづれて
あし あきかぜ ふ
芦のまろやに 秋風ぞ吹く

大納言経信
だいなこんつねのぶ

七十二

音に聞く 高師の浜の あだ波は
おと き たかし はま なみ
かけじや袖の ぬれもこそすれ
そで

祐子内親王家紀伊
ゆうしないうけのきい

七十三

高砂の 尾上の 桜 咲きにけり
たかさご おのえ さくら さ
とやま かすみ た
外山の 霞 立たずもあらなむ
ん

権中納言 匡房
ごんちゅうなごんまさむね

七十四

憂かりける 人を初瀬の 山おろしよ
う ひと はつせ やま
はげしかれとは 祈らぬものを
いの

源俊頼 朝臣
みなもとのとしよりあそん

七十五

契りおきし させもが露を 命にて
ちぎ つゆ いのち
あはれ今年の 秋もいぬめり
あき

藤原基俊
ふじわらのもととし